



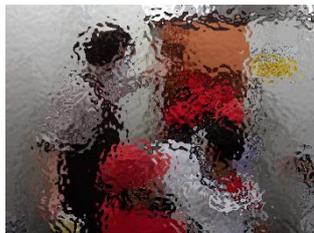
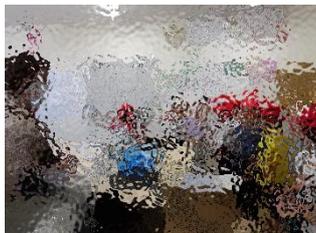
教育目標：やさしく かしこく たくましく

❖ 社会見学(3年生)

9月24日(水)に3年生が社会科の学習でスーパーマーケットの見学に行きました。子どもたちは現在社会科で自分たちの暮らしを支える仕組みを学んでいます。自分たちの生活はいろいろな仕事に支えられており、そこにはその仕事に従事する人たちがいる。その仕事を知るとともに、そこで働く人たちの思いや願いにも触れることを目的とした活動です。

事前の授業で自分たちがよく利用する店について話し合い、身近なスーパーマーケットに見学に行くことになりました。当日に向けて、見学の手順や質問事項などを考えました。

当日は店長さんと副店長さんが分担して案内をしてくださいました。バックヤードも見せていただき、大きな冷凍庫や野菜の裁断機、パック詰め作業、事務所の様子など、普段見ることのない場所や物に興味津々でした。お客さんに良い商品を届ける工夫や買ってもらうための工夫、安全に配慮した売り場の工夫などいろいろなことを教えていただきました。



事務室は職員室みたいでした 人が入れる大きな冷凍庫！寒い！ 知っている野菜がいろいろあったよ！ たくさんの質問に答えていただきました

❖ 手話教室(4年生)

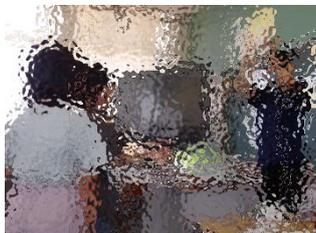
9月26日(金)に4年生が手話教室を実施しました。当日は姫路ろうあ協会の方々にお越しいただき、協会の方から普段の生活の様子をお聞きしました。テレビの視聴、電話やインターホンの対応、目覚ましや料理(電子レンジ)、テレビゲームなど日常生活のいろいろな場面で「音の情報」がいかにたくさんあり、それに自分たちがどれだけ頼っているかということを子どもたちは改めて認識しました。

そしてそれら「音」の情報を「視覚」や「触覚」に置き換えて認知する方法や道具を教えてくださいました。バイブレーターやフラッシュなど初めて見る機器に子どもたちは興味を持ち、使い方やどのような場面で使うのかなどたくさん質問していました。

困るのは、マスクで口元が見えないことが多いので「口話(口の動きから言葉を読み取る方法)」が使えなかったり、耳が聞こえないという障がいには外見からわかりにくいので、「聞こえないふりをしている」という誤解を受けたりすることがあるということだそうです。

一方で周囲が騒がしかったり、相手が遠く離れたりしていても手話であれば会話できるという良いところもあるということです。これは音声に頼らない伝達手段の利点ですね。

そして最後に言われた「私たちは聞こえなくても皆さんと同じように生活ができます」「不便はあるけど不幸ではありません」「街で見かけたときは『かわいそう』ではなく、『何か困っていないかな』、と思ってほしいです」という言葉が印象に残りました。



フラッシュで知らせるインターホン フラッシュで知らせるタイマー 音声で文字になるアプリもあります 「高岡小学校」の手話も覚えたよ！